

針ノ木岳山スキー報告

【山城】北アルプス・針ノ木岳

【日程と天気】2018年5月

【メンバー】CL：菊池・池田・井上（里）古関

【行程】

千葉ー扇沢7:23ー作業道ー最終堰堤ー針ノ木雪渓ーシール登高ーマヤクボ出会ーアイゼン登高ー針ノ木峠ー往路を滑走ー作業道ー扇沢ー上原の湯ー帰葉

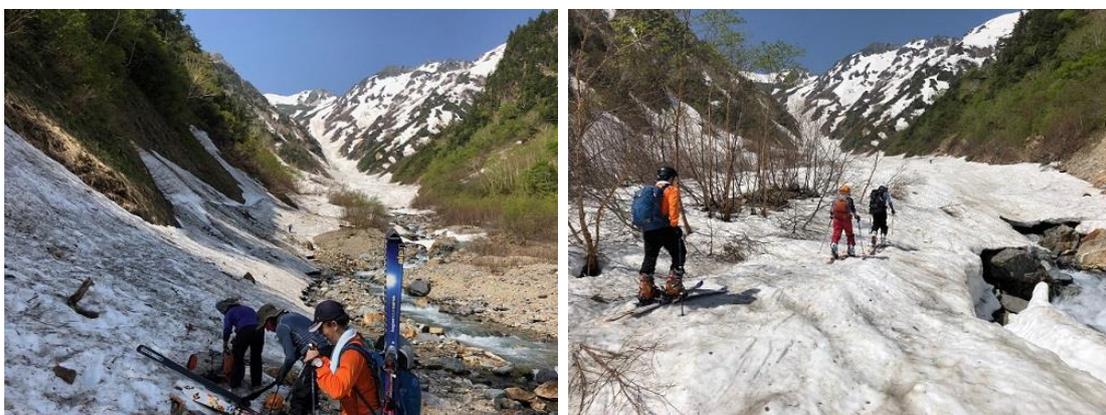


・5月最終週は最近、毎年のように針ノ木岳に山スキーに来ている。梅雨入り間近であるが、週末は何とかツアー日和に恵まれ、毎週計画通りに実施できおり、新緑と残雪の素晴らしい山岳山スキーを堪能しております。このエリアの山スキーは2002年の6月第一週日曜日、百瀬慎太郎祭の日に初体験して以来今回で10回目ほど、山スキーシー



ズン終盤戦のエリアとしてお気に入りであり、今回も、針ノ木未経験の3名を案内した。7:23 スタート、いつもの沢右岸の作業道を進む。今シーズンは融雪が早く、針ノ木雪溪の状況が懸念されながら、ツボ足登高がしばらく続く。

- 例年ですと、蓮華大沢出会の手前の堰堤付近からは雪溪は全面埋まっていることが多いが、今回は最終堰堤を左から越えて漸く細々と辛うじて雪が繋がっているこの時点からシール登高できた。一昨年は極めて寡雪の年で、1週前に訪れたが、大沢小屋経由でしばらく登山道を苦勞して進み、漸く雪溪に降り立つことができたが、その時より少しはマシであった。割れた沢の脇を慎重に通過、滑走時は落ちないように注意せねばと肝に銘じた。百瀬慎太郎祭りの頃にはもっと割れており、この辺の通過は無理であり大沢小屋経由で登山道を暫く進んで雪溪に降り立たねばならないであろう。



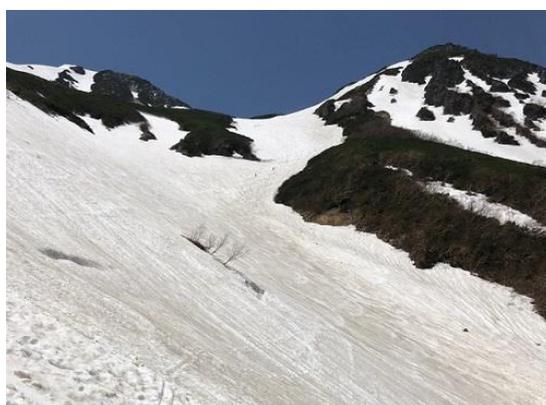
間もなく全面雪で埋まった状況となり快適なシール登行となった。下部では小石、枝などが散らばっているが、少ない所を選んで滑走できそうである。雪崩による広範囲のデブリの影響は殆どないが、一か所崖からのブロック雪崩跡の後が見られた。



標高 2000m位より下部での融雪は早いですが、それ以上では例年並みの残雪量のようにある。例年、この時期にはノドの急斜面の部分は上に向かって左側に大きなクラック

が入っているが、今年はむしろクラックはでき始めの状態であった。クロー装着でのシール登高は、省エネになり高齢者には好都合である。雪渓上の落石が所々に見られるが、その部分を避けるように登高、ノドの上部に到達した。この辺は適度な斜度と雪面が安定しており滑走が期待できる。

- マヤクボ出会の標高 2250m付近で休憩しここから針ノ木峠（2536m）まで急斜面のアイゼン登高が始まる。昨年までの2年間はマヤクボの急斜面を頑張ったが、今回は初体験者の案内のため、楽な針ノ木峠までに向かうことにしていた。この日は登山者の方が多いようで山スキーヤーは少なめであった。大方の山スキーヤーはマヤクボに向かっていた。マヤクボ急斜面のノド部分のクラックはまだ小さいようだ。この辺の残雪量は少なくないように感じる。



最後の急斜面アイゼン登高は焦らず、ゆっくり呼吸を整えながら残雪の岩峰の山々を背にして頑張った。雪面は緩んでいるが、35度以上はあるようなこんな急斜面に縦溝がある。滑走はかなり難儀するであろう。



- 針ノ木小屋はほぼ完全に出ている。全員稜線に到達して30分ほどの休憩の後、針ノ木岳山頂をバックに記念撮影をしていよいよ滑走である。



雪面は緩んでいるものの、縦溝付きの急斜面に緊張の面持ちであった。なるべく斜度が緩く縦溝が浅いラインを選んで斜滑降・横滑り・ジャンプターンを駆使して、慎重に気合を入れて停まり停まりしながら高度を下げた。小生はこの荒れた急斜面ではテレターンはしばらく封印、ジャンプアルペンターンで慎重に下った。皆さんも漸く慣れてきて、縦溝の影響も少なくなって、なかなかの出来栄である。緊張しまくっていたIさんは意外や意外、ジャンターンを披露して、皆さんを驚かしていた。本人はジャンプターンとは何ですか？と経験の浅い山スキー女史であるが自然に身についたテクニックにメンバーの称賛を浴びていた。



赴任地の三重から馳せ参じたKさんもリズムカル急斜面ターンを楽しみ、山岳スキーの醍醐味に浸っていた。若いIさんはいつものように、豪快な大回りターンを楽しんでいた。雪質は良く走る上質ザラメ、縦溝などで荒れた急斜面にスピードコントロールが必須である。



- ・マヤクボ出会から下部は雪質の安定した快適斜面、ノドの急斜面までは落石もなく、思い思いの滑走を楽しめた。



ノドから下部は、落石・デブリ跡によるうねりなどがあるため、滑走ルートを観察しながらゆっくり滑走した。小石が多く散在している部分があるため、そこを避けるように滑走したが、滑走面を傷つけ嘆き節を発するメンバーもいた。シール登行開始地点（1700m付近）まで滑走して終了。標高差 830m程の滑走を堪能できた。下部は例年、小石や、枝などの



影響が大なり小なりあるが、今回は慎重に滑走すれば、小石の影響も少なかった。沢で汚れた板を洗い、往路の作業道を下った。



作業道は落石の注意が必要であるが、扇沢までの所要時間は短い。大沢小屋から下部を登山道を辿るとかなりの時間を要する。作業道を知らない山スキーヤー・登山者は意外と多く、今回、往路で単独者に、復路で2人組の登山者に教えてあげたら、非常に喜ばれました。この作業道はカシミールの地図にも記載されており、有用である。残雪期山スキーエリアとして、富士山・針ノ木雪渓・乗鞍岳に多くの山スキー仲間を案内した。体力的には富士山はかなり厳しいが針ノ木雪渓ならもう数年は大丈夫であろう。何回来ても飽きない素晴らしい山岳スキーエリアである。